

プログラム解析・デバッグ支援用 DLL

# DebugHelper

---

Version 1.0.0

利用マニュアル

TECH-BEE

サポートメールアドレス [tech-bee@mail.goo.ne.jp](mailto:tech-bee@mail.goo.ne.jp)

ご意見・ご要望: <http://techbee.blog14.fc2.com/blog-entry-75.ht>

# 改定履歴

版	公開日	Version	摘要
---	-----	---------	----

---

第1版	2010/12/29	1.0.0	初版公開
-----	------------	-------	------

---

# 目次

---

はじめに	1
準備	2
利用方法	3

---

# はじめに

---

当プログラムは、.net の開発環境でデバッグを行う際に、メッセージボックス・ログ出力・メール送信を行います。

ソース中に適宜当プログラムを埋め込み使用します。

デバッグモードの際は無条件で動作させたいのであれば、`#If DEBUG Then` で指定すれば良いわけですが、当プログラムではさらにきめ細かく実行条件を指定することができます。

各命令について、次の2つの条件を指定し実行を制御します。

- エラーレベル 当プログラム全体の `MaxErrorLevel` 以下の命令を実行します。
- キーワード 当プログラム全体のキーワードと同一の場合に命令を実行します。  
(キーワード・全体のキーワードのいずれかが未指定の場合も実行します)

そもそもは、数年前に他の人が開発したプログラムを解析するために作ったもので、変数にセットした値がいつの間にかリセットされてしまう軌跡をトレースするために作った仕組みを外しました。

目的を終えたあとでソースから削除する必要がなく、客先への納品後でもコンパイルした状態のまま、外部から上記2項目を設定する仕組みにしておくことで納品プログラムの動作を確認することができます。

# 準備

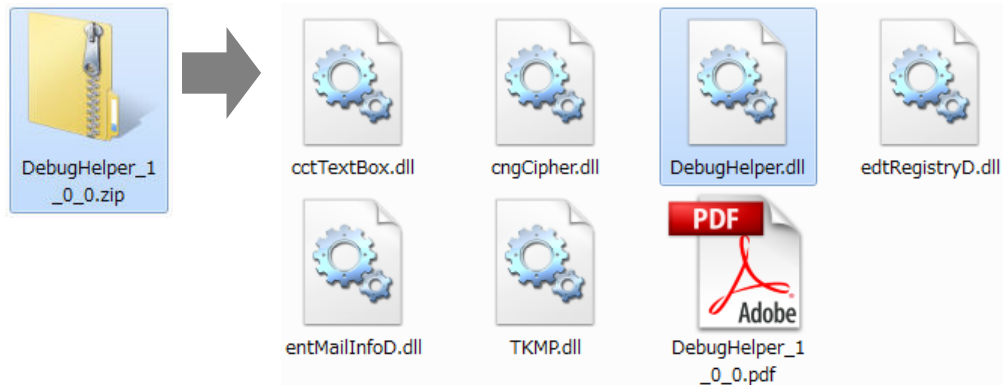
---

## 1 動作環境

- ・ 対応PC Windows2000 SP4, XP SP3, Vista, 7 が動作する PC/AT互換機
- ・ 環境 .NetFramework2.0 以上

## 2 ファイル配置

- ・ ダウンロードしたファイルを解凍します。



解凍した内容は次のとおり

- DebugHelper.dll  
当プログラム本体
- cctTextBox.dll  
entMailInfoD.dll で利用する DLL
- cngCipher.dll  
entMailInfoD.dll で利用する DLL
- edtRegistryD.dll  
entMailInfoD.dll で利用する DLL
- entMailInfoD.dll  
メール送信する際の詳細情報登録用 DLL
- TKMP.dll  
TOKI様が開発したメール送受信用 DLL
- DebugHelper\_1\_0\_0.pdf  
本マニュアルファイル

- ・ インストールは必要ありませんので、任意のディレクトリに配置してください

# 利用方法

---

## 1 参照

- ・ 解凍した当プログラム中の DebugHelper.dll を参照設定する

## 2 定義

- ・ オブジェクトの生成（次の3種類の方法があります）

```
Public g_objDebugHelper As New TechBee.DebugHelper
```

```
Public g_objDebugHelper As New TechBee.DebugHelper ([エラーレベル])
```

```
Public g_objDebugHelper As New TechBee.DebugHelper ([エラーレベル], _  
                                                    [送信元メールアドレス])
```

それぞれプログラムの動作には代わりがなく、引数で与えた設定値はプロパティや、各命令の実行時に指定することができます。

- ・ プロパティ

<< メール送信 >>

- Mailer\_MailAddress

送信先メールアドレス

- Mailer\_Sender

送信者名

- Mailer\_SendAddress

送信元メールアドレス

事前に詳細設定が登録されていない場合は登録を促します。

- Mailer\_Header

送信メールタイトル

<< メッセージボックス >>

- Messenger\_Title

メッセージボックスのタイトル

<< ログ出力 >>

- Logger\_FileName

出力ログファイル名

- Logget\_FormatString

ログ中に出力する出力日時の書式（デフォルト：yyyy/MM/dd HH:mm）

<< 共通 >>

- MaxErrorLevel

処理実行条件を絞り込むためのエラーレベルのしきい値

- KeyWord

処理実行条件を絞り込むためのキーワード

# 利用方法

---

## 3 実行

◀ メール送信 ▶

gsub\_Mailer

実行条件に該当した際に引数などにより指定された内容のメールを送信します。

### ・ 引数

- 実行条件のエラーレベル  
オブジェクト生成時もしくはプロパティにより指定した MaxErrorLevel 以下が指定してあれば処置を実行する
- 実行条件のキーワード  
プロパティにより指定したキーワードと合致する、もしくはいずれかが指定してなければ処理を実行する  
(上記2項目の AND 条件により処理を行う)
- メール本文
- 送信先メールアドレス  
プロパティにより指定することが可能
- メールタイトル  
プロパティにより指定することが可能
- 送信者名  
プロパティにより指定することが可能
- 送信元メールアドレス  
オブジェクト生成時もしくはプロパティにより指定することが可能

◀ メッセージボックス ▶

gsub\_Messenger

実行条件に該当した際に引数などにより指定された内容のメッセージボックスを表示します。

### ・ 引数

- 実行条件のエラーレベル
- 実行条件のキーワード
- メッセージ
- メッセージボックスのタイトル  
プロパティにより指定することが可能

# 利用方法

---

<< ログ出力 >>

gsub\_Logger

実行条件に該当した際に引数などにより指定された内容のログを出力します。

- ・ 引数

- 実行条件のエラーレベル

- 実行条件のキーワード

- メッセージ

- ログファイル名

出力ファイル名を指定する

内容によりファイル名を変えるといた利用もできる

プロパティにより指定することが可能

- 出力日時の表示書式

ログ中に出力する出力日時の書式（デフォルト：yyyy/MM/dd HH:mm）

プロパティにより指定することが可能

- 明示的に日時を指定する際の現在日時

一連の処理の出力日時を、ボタンクリック時に統一する際などに指定する

プロパティにより指定することが可能

## 4 実行判定

各処理はエラーレベルとキーワードの指定の両方が該当する際に実行します。

<< エラーレベル >>

- ・ 各処理で指定した ErrorLevel が MaxErrorLevel よりも小さい

<< キーワード >>

- ・ 各処理で指定したキーワードが空白 ("")

- ・ プロパティにより指定したキーワードが空白 ("")

- ・ 各処理で指定したキーワードと、プロパティにより指定したキーワードが同一

のいずれか

客先へのリリース時には MaxErrorLevel を 0 にして出荷すればすべての処理が動作しません

また、外部からアクセス可能な形式の方法(iniファイルやレジストリ・xml等)で設定を行えば

客先でコンパイルしたま状態のままのプログラムの動作を検証できます。